

困っている人を助ける社会にするには

高部屋小学校 六年

平 晴希

僕はサッカーを習っています。会場には、電車やバスで行くことが多いです。ある日、バスに乗っているヘルプマークをバッグにつけているおじいさんが乗ってきました。ヘルプマークというのは人の助けが必要という意味です。そのおじいさんは、足が痛そうにしていました。僕は席に座っていました。たの

で席をゆずることはできませんでした。どうにかしてその人を助けようと思いました。しかし、空いている席は一つもなく、どうすれば良いか考えました。その時、頭にある考えが浮かびました。このバスには優先席があることを。そこにはイヤホンをしながらスマートフォンを見ている若い男性が座っていました。その人は、周りを一切見ていませんでした。僕はその人に席をゆずってくれるように言おうと

しました。少し恥ずかしくて言えませんでした。しばらく迷っていましたが、勇気をふり絞って、すみません。ここにヘルプマークをつけている方がいるので席をゆずってもらってもいいですか。と言いました。そして優先席に座っていた人は快くゆずってくれました。僕はその人にお礼をしました。おじいさんは席をゆずってくれた人だけでなく、僕にもお礼を伝えてくれました。

自分が役に立てたことがうれしかったです。

優先席に座っていると思うけれど周りを見て席を必要としていそうな人がいないか確認した方がいと思います。席を必要としている人もがまんせず、「ゆずってください」と言っただ方がいいと思います。

困っている人が安心して暮らせる社会を作っていくためには一人一人の思いやりや想像力が必要だと思います。僕は、これから周りをよく見て困っている人を助けたいです。